

2020年9月11日

町田市長
石坂 丈一 様

町田市環境審議会
会長 堂前 雅史

「第二次町田市環境マスタープラン」、「町田生きもの共生プラン」
2019年度進捗状況の点検評価について（報告）

第75回（2020年8月19日書面開催）町田市環境審議会において、「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」の2019年度進捗状況の点検評価を行った。その結果を、以下のとおり報告する。

記

1 総括

2021年度までを計画期間とする「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」は、目標の達成に向けたラストスパートの時期に入っている。

「後期アクションプラン～第二次町田市環境マスタープラン推進計画～」に掲げられた重点事業については、2019年度の取り組みとしては一定の進捗が見られ概ね評価できる。一方で、地球温暖化防止や循環型社会構築の分野では、達成目標について、目標値と現状値に乖離が見られる。市民への情報発信や環境学習・活動の場の提供を行う上で、市民が興味を持ちやすい切り口を模索するとともに、SNS等の積極的な活用を行い、より効果的に伝わる手段を選択して、施策の一層の推進を図る必要がある。

2015年度に運用を開始した「町田生きもの共生プラン」においては、2019年度に生物多様性情報拠点機能の整備・充実の取り組みとしてスマホアプリによる生きもの調査を開始した。これは市民参加型の取り組みであり今後の発展性に期待したい。また、生きもの共生フォーラムなどを活用し、多様な主体との連携を進めていくとともに、生きもの調査や学習会の内容をさらに充実させることも期待する。

「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」は、計画期間の終了を前に、現行計画の進捗点検を行う上で顕在化してきた課題を整理し、次期計画に反映することが重要である。次期計画については市民・事業者の環境意識に働きかけ、より環境への取り組みが促進されるような指標（目標）設定が望まれる。さらに、市民・事業者の行動や努力が反映される施策の選定をし、世界および日本の時事的な状況にも対応できる計画案とすることを強く希望する。

2 評価意見および提言

2019年度の進捗点検は、「第二次町田市環境マスタープラン」の5つの基本目標ごとに、行った。この内、「基本目標2：自然環境と歴史的文化的環境の保全」には、「町田生きもの共生プラン」の評価も含めることとした。

2019年度の評価意見及び提言については以下のとおりである。

基本目標1 地域で取り組む地球温暖化の防止	
主な 評価 意見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として前に進んでいるが、達成目標の達成度は芳しくない。 ・達成目標を達成しないのであれば、施策のレベル設定に問題があるとも言える。 ・減少傾向であったマイカー利用を控える市民が回復しているのは喜ばしい。 ・「わたしのエコ宣言」は誰もが気軽に参加できる良い制度であると思う。 ・市民アンケート結果では多くの市民が日常の中で温暖化対策に取り組んでいるが、現状の指標では市民がどれだけ貢献出来ているかの実感が持てないものとなっている。 ・地域での個々の取り組みが着実に成果を上げていることは評価できる。 ・再生可能エネルギー割合の達成目標について、市の補助事業終了によって計画期間中にもかかわらず評価不能となる事態は遺憾である。
主な 提案 事項 等	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーについては、市民や民間の自発的な取り組みが大きな役割を持ちつつあることを考えると、市による情報提供や間接的支援だけでなく、市民や事業所がやっている活動や成果が反映されるような協働体制や評価指標が必要である。 ・特別緑地保全地区の拡大は目標値を上回っているが、基本目標2でも重要なもので今後も進めて欲しい。 ・「脱炭素(低炭素化)」は地球規模での大きな課題であるので、「市民一人あたりの二酸化炭素排出量」の指標に対する注目度・関心度を引き続き高める取り組みを期待する。 ・EV(電気自動車)の普及拡大は、脱炭素(低炭素化)だけでなく、災害時(長期停電時)における蓄電池の役割も果たすため、環境面に加え防災時の備えの必要性の観点からも推進してはどうか。 ・「わたしのエコ宣言」はホームページや冊子等により多く取り上げることで励みにもなり、さらなる広がりも期待できると思われる。さらに家庭だけでなく学校のクラスやサークル等の単位での取り組みも紹介できると良い。 ・今の自分の生活スタイルを少し変えるだけでできる環境への対策(緑のカーテン・エコドライブなど)を町田市民の方々に浸透させる取り組みを推進してほしい。 ・地球温暖化対策について市民が実感を持てるよう見える化をお願いしたい。 ・市の施策や啓発も重要であるが、今後は市民との役割分担をどう施策に盛り込み協働を図るかも必要となってくる。 ・次期マスタープランでは施策に左右されない評価指標を検討導入することで、達成状況の評価を継続できるようにすべきである。

基本目標2 自然環境と歴史的文化的環境の保全

<p>主 な 評 価 意 見 等</p>	<p><第二次町田市環境マスタープラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みは全体として前に進んでいる。 ・達成目標の②の町田市内での水辺とのふれあいについて満足している市民の満足度が高まったことは大きな成果であるが、生きものへの関心、緑地の確保が高まっていないことは、近年重要となってきた都市の生物多様性についての理解が得られていない可能性があるように感じられる。 ・緑地管理で、新たに7団体が活動開始したことはめざましい成果だと思う。 ・生きものに関心のある市民の割合がいまいち伸びていないのはやや残念である。 <p><町田生きもの共生プラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や生きものに興味を持つ市民をサポートする施策は充実している一方で、興味を持たない(こちらがマジョリティー層?)市民を巻き込む施策が不足しているように感じられる。 ・スマホアプリ「まちピカ町田くん」の効果が非常に高く、市民参加型の遊び心をくすぐる取り組みなのでとても良いと思う。 ・生きもの共生プランは一定の成果が表れていると思われる。
<p>主 な 提 案 事 項 等</p>	<p><第二次町田市環境マスタープラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成目標3項目の達成のため、さらに多くの市民を巻き込む施策への展開に期待したい。 ・『生き物×環境×スポーツ』などテーマを組み合わせたイベントなどを開催して関心度を高めていく施策も可能ではないか。 ・2022年に30年の期限到来を迎える生産緑地の特定生産緑地への指定推進は、2019年度は一定の成果が出ていると判断出来るので、今年度も引き続き申請を行っていない地権者に対して訪問・説明を実施し、多くの生産緑地が継続されるよう進めて頂きたい。 <p><町田生きもの共生プラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町田の自然環境に関心の低い層に向けて「生きもの発見レポート」の成果を反映させて、川辺の道路沿いなどにプレート掲示するなど、身近な町中に生物多様性情報発信の拠点を作ってはどうか。 ・活動団体の市民と市の職員が顔を見せあい信頼関係を持つきっかけとなる場を増やす必要性を感じるので、生きもの共生フォーラムなどはそうした機能を担って欲しい。アレチウリの駆除は有効であると思う。外来生物対策は、このような被害が激しい種に集中して対応した方が良い。 ・ビオトープ作庭は、環境教育になるだけでなく、都市の生物多様性拠点となる飛び石ビオトープの一部を町中に作り、また雨水の貯留場所として気候変動適応策にもなることでもあり、市内の全小中学校で進めて欲しい。 ・SNS等を用いて、幅広い市民の参画を前提とした意見交換の場を作ったり、各地域の多様な市民との協働管理体制を確立していくことが必要だと思う。 ・より多くの市民が自然環境の良さや重要性に気づききっかけや季節を味わえる機会を創り、自然や生き物と共生するノウハウを提供して欲しい。 ・子どもたちが町田の自然環境や生き物の特性などについて理解を深めることで町田への愛着を育む流れはとても大切と感じるので持続的に活動を行ってほしい。

基本目標3 持続可能な循環型社会の構築

<p>主な評価意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標の進捗を見ると、一人一日あたりのごみとして処理する量は目標を達成している。 ・処理量の施設によらない約 13,700tの減量と資源化率についての目標達成は難しそうであり、取り組みの進捗状況も思わしくない。 ・食品ロスの啓発等、各種キャンペーンの実施などはよいと思う。一般的に、食品ロスという用語がようやく市民権を得てきたように思うとともに、啓蒙の効果も出てきていると思う。 ・事業者向けのPR活動は評価できる。 ・個人宅での生ごみ処理機導入は順調に進んでいるように思う。
<p>主な提案事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業所が、協力したことで実感を持てるようなしくみや指標が必要なのかも知れない。 ・施設整備が遅延するのはやむを得ないところだが、施設に依存しない減量分を達成するための、一人あたりのごみ削減量を目標として提示する必要がある。 ・排出事業者への適正な指導も今後、継続的に実施の上、商工会議所や市内業種団体との懇談会や説明会の場面をつくり、さらなる連携強化を図る必要がある。 ・新型コロナウイルスの影響により、外食の機会が減り、家庭での食事の機会の増加が見込まれることから、家庭での食品ロス削減の啓発に力を入れるのが効果的ではないか。 ・新型コロナウイルスの影響等でしばらくはイベント等の開催は困難と思われることから、ホームページやSNS等を活用した取り組みを積極的に展開してもらいたい。 ・市民に対し、ごみの減量や資源化率の向上を求める上でも「実態の見える化」が必要であり、現状を伝え市民に気付かせ行動に移させる施策を考える必要があると感じる。 ・ステージを上げる段階に入っていると考えられるので、ごみの種類や量、処理方法などを、より広範囲にかつ具体的に達成目標案を示し、市民(個人・団体・企業等)との意見交換を通して目標を設定していく必要がある。 ・企業や商店に対してプラスチック包装や容器にする必要のないものや過剰包装を禁止する取り決めや条例等が必要ではないか。

基本目標4 良好な生活環境の創造

<p>主な評価意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車レーンの設置がかなり進んでいると思う。これは環境面だけでなく安全確保の面からも重要と思われるため、引き続き積極的に推進することを期待する。 ・居住地の周辺環境について、満足している市民の割合が大きく伸びていることは評価に値する。 ・空気環境・水質環境については良好に推移していると思う。 ・下水処理水の水質向上については各クリーンセンターが有効に機能していると感じられる。
<p>主な提案事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査結果から、周辺環境について犬のふん、猫の外飼いやポイ捨てなどの不満が多く、市民マナーの向上にむけた施策も求められる。 ・目標が環境基準の達成では「良好な生活環境の創造」とはいえないので、次期計画で検討を求める。 ・高度水処理を達成すると、大気や水質については、都市環境として、これ以上の改善は飽和状態になっているように見えるので現状の大気や水質を達成目標とするのはふさわしくないと考えられ、今後の目標としては景観、ノンポイント汚染、ヒートアイランド、騒音などを視野に入れた指標を考えた方がよいのではないか。

基本目標5 環境に配慮した生活スタイルの定着

<p>主な評価意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな子ども向け環境講座のプログラムの企画・実施が増えたのは評価できる。 ・環境に配慮した行動を行っている市民の割合を指標にするのは良いことだと思う。 ・環境に配慮した市民の割合を増やすのは、学校教育や生涯学習での環境学習や環境イベント等を通じて長期間にわたって育てていくもので、すぐに成果が出るとは限らないという視点もあってもよい。 ・現状の事業者向け「まちだエコ宣言」制度は各企業の取り組み実態を掲げるだけで、経営者のみならず、そこで働く従業員の環境面への意識がわかりずらくエコ宣言の制度メリットもあまり感じられない。 ・市内小中学校における環境教育は全校で行われ継続していることは評価できるが、現状に甘んじることなく、子ども達に伝わり環境に配慮することが〈自分にとって〉〈家族にとって〉〈地域にとって〉そして〈未来にとって〉必要だと心に届かせる環境教育を実践しなければならないと思う。 ・情報発信ツールとしてSNS(ツイッターやInstagram)を活用しているのは良いことである。
<p>主な提案事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートの結果をみると、特にエネルギー対策、地球温暖化、ごみの減量・資源化への関心が高いので、エネルギー対策・地球温暖化対策では節電と再エネの選択の、ごみの削減では、販売または使用を減らすことの重要性を市民に啓発してほしい。 ・次期マスタープランでは、3Rだけではなく、refuseなど「すぐにごみになるもの」を「そもそも消費しないこと」、「もらわない／断ること」も推進してほしい。 ・各取り組みの見せ方に関し、17あるSDGs目標のどれに紐づいているか、示すのも良いのではないか。 ・ホームページやSNS等を活用した取り組みを積極的に展開してもらいたい。特にSNSに関しては発信したい情報なども事業者や団体と連携することで発信力や拡散力を高めていくことができれば、町田市民も情報をキャッチしやすく、より効果的な取り組みになるのではないか。 ・市民アンケート結果の環境に配慮した行動を行えない行わない、行うのが難しい理由で「環境問題の現状がわからない」「何をすればよいかわからない」「行動による効果がわからない」と回答される方々へのアプローチ方法を深掘りしていくことができれば、環境に配慮した行動への協力者が見込めるのではないか。 ・子ども向けの環境学習プログラムの企画・実施において、市内環境団体と連携することで更なるプログラムの充実を図ってはどうか。 ・町田市は市民団体、大学などの多様な人材があり、町中から北部丘陵や境川源流までの多様な環境があり、子どもが楽しく学べる新しい環境教育プログラムの開発にはもってこいの地域であり、まだまだ眠っている資源が多いと思う。そこで、プロジェクトWET、プロジェクトワイルド、PLT、ネイチャーリーダー等の子ども向けの環境教育プログラムを学生が学んでいる大学と連携して進めるのも重要と思われる。そうした自由な環境教育の場としては、学校教育よりも児童館的施設を活用する方が有効なのではないか。